

## 介護職員初任者研修で8人が修了

第7回の城西病院「介護職員初任者研修」の修了式が12月4日、城西病院会議室で行われました。

この研修は、介護の基本的な知識と技術を身につけるための研修で、城西病院や社会福祉法人達生堂などの達生堂グループの専門職員が講師となって開いています。昨年は、コロナ禍のために開催を断念。例年は、外部の人にも参加を呼び掛けて開いていましたが、コロナ禍のためにグループ職員のみでの参加で、今年6月に、城西病院3人社会福祉法人達生堂3人、ショートステイみぶの杜1人の計8人の受講生で開講しました。

研修は、毎週土曜日に開かれ、人間の尊厳や自立に向けた介護、安全衛生、介護と医療の連携、コミュニケーション、認知症、入浴と清潔保持、ターミナルケアなど幅広い領域にわたり、130時間かけて講義と実習で学んできました。そして8人は、すべて一回目の試験で合格を果たしました。

城西病院の白石裕比湖理事長は「看護は人間誰しもが行き着く場所。弱い立場の人に寄り添って仕事をしたい。研修を胸に刻み、グループ内で活躍してほしい」とあいさつ。初任者研修所の倉持裕子所



長も「介護に対する基本的な知識や技術を学んできました。介護する人に寄り添い、気持ちを受け止めて仕事に励んでください。この研修で半年、励まし合ってきました。その時期を思い出し、初心に帰って頑張ってください」とあいさつ。受講生を代表して鈴木啓司さんは「初任者研修で学んだことにより、これまで以上に自信をもって仕事に取り組むことができます。半年続けられたのは心強い仲間がいたから。グループの一員として地域の役に立つよう頑張っていきたい」と謝辞を述べました。

2021年12月6日

